

第1回 日本獣医がん学会雑誌 編集会議 議事録

日時：2009年7月12日(日) 17:05～17:30

場所：麻布大学 8号館8404講義室

出席者(順不同):

[会長] 信田卓男(麻布大学) [雑誌編集委員会 編集委員] 下田哲也(山陽動物医療センター)、山上哲史(マルピーライフテック株式会社)、高橋朋子先生(日本大学)、廉澤 剛(酪農学園大学)、圓尾拓也(麻布大学附属動物病院)、皆上大吾(日本獣医生命科学大学)、浅野和之(日本大学)、難波裕之(難波動物病理検査ラボ)(合計9名)

委任者：なし

議長：[雑誌編集委員会編集委員長] 藤田道郎(日本獣医生命科学大学)

書記：[雑誌編集・制作担当] 吉田由紀子(CACompany 委託)

下記のとおりご報告申し上げます。

1. 報告事項

(1) 本会雑誌発行回数および時期について：

年四回 1月、4月、7月、10月発行予定。ただし創刊号は2009年11月末日発行予定と報告された。

(2) 本会雑誌構成：

「総説」(依頼原稿)、「原著」(投稿原稿)、「短報」(投稿原稿)、「技術講座」(依頼原稿)を主な本編構成とすると報告された。

(3) 「原著」「短報」について：

現在、宮崎大学(日高勇一先生)、麻布大学附属動物病院腫瘍科、愛知県会員から数編の投稿が予定ありと報告された。

(4) 査読謝礼について：

「原著」「短報」ともに論文1編につき、メイン査読者には1万円、査読者には5千円を支払うと報告された。

2. 審議事項

(1) 査読システムについて：

査読システムについて(ア)～(オ)が提案、承認された。

(ア) メイン査読者は本会雑誌編集委員が担当する。

(イ) 投稿原稿(「原著」「短報」)は1～5の流れで査読される。

1. 投稿原稿は、journal@jvcs.jp(本会雑誌編集委員会)へ、メールにて投稿する。
2. 編集委員長は投稿原稿の内容から判断して、メイン査読者の一人に投稿原稿を送る。
3. 編集委員長から送られた投稿原稿の内容から判断して、メイン査読者は査読者を推挙し、編集委員長へ報告・決定した後に投稿原稿を査読者へ送付する。
4. 査読者は、メイン査読者から送付された投稿原稿を査読する。査読結果を添え投稿原稿をメイン査読者へ戻す。

5. メイン査読者は査読者からの査読結果をふまえ、必要があれば投稿者へ修正等を指示し、投稿者と修正原稿のやりとりを行い、最終的な掲載の可否を決定

(ウ) 第1回編集会議での編集委員からの推薦者すべて、および後日、会長から提案された本会認定医1種取得者に、雑誌編集委員会より「査読者受諾のご依頼」を送る。了承者を査読者とし、査読者リストを作成する。

(エ) 論文内容により、(ウ)のリスト以外への査読依頼も可能とし、編集委員長から直接依頼する場合もある。

(オ) メイン査読者は、謝礼の支払手続のため、決定次第、査読者氏名および所属を journal@jvcs.jp (本会雑誌編集委員会) に報告する。

(2) 「原著」「短報」の進行について：

「原著」「短報」の進行について(ア)(イ)が提案、承認された。

(ア) 現在、宮崎大学(日高勇一先生) 麻布大学附属動物病院腫瘍科、愛知県会員から数編の投稿が予定されており、これらの論文は創刊号への掲載も視野にいれ、投稿後、可及的速やかに査読を終了させ、本会雑誌への掲載制作作業へと進める。

(イ) 「原著」「短報」は、本会雑誌の査読にて掲載不可となった場合、「小動物腫瘍臨床(Joncol)」への掲載の可能性があり、その機会を逸しないためにも速やかな査読を行うこと。

(3) 創刊号「総説」について：

日本獣医がん研究会時から第一回日本獣医がん学会にかけて3回にわたり、臨床研究に必要な統計学的な論文の書き方等を講義いただいた松島雅人先生(東京慈恵会医科大学)への、創刊号への「総説」原稿の執筆依頼について提案、承認された。

(4) 創刊号「技術講座」について：

創刊号「技術講座」について(ア)が提案、承認、(イ)が補足された。

(ア) 病理部会 部会長より一年間通して1つのテーマにて「技術講座」ページを展開することに賛同いただいたことを踏まえ、病理部会を通じて執筆者をつのり、2009年11月末日発行予定の創刊号、および2010年発行の4号(1月、4月、7月、10月発行予定)の合計5回シリーズにて「技術講座」を連載。

(イ) 原稿執筆は英文・日本語どちらでも可能であること、ただし要旨は必ず英文で記載すること、図の表題は英文記載にすること、詳細はホームページの投稿規定も確認すること。

(5) 前述の(4)(イ)を委員長が再考し、「総説」および「技術講座」の執筆項目は、会員への教育的な啓発を目的とするため、執筆要項について新たに提案する。

(ア) <総説> 和文表題、英文表題、Key word (英語：投稿規程7.の通り)、英文要旨、本文和文、図表題英文とする。

(イ) <技術講座> 和文表題、英文表題、本文和文、図表題英文とする。

なお、Key word および英文要旨は不要とする。

3. その他

(1) 「原著」「短報」投稿促進について：

「原著」「短報」投稿促進について(ア)~(エ)が提案、今後の検討事項とされ、(オ)が確認された。

- (ア) 本会認定医 種の更新条件に、本会雑誌への「原著」「短報」への最低1本の投稿を加える。
 - (イ) (ア)をふまえ、論文投稿促進のための認定医1種に対応した教育システム(例:「論文の書き方セミナー」のような場を本会で設ける。投稿用のひな形を作る。用語統一表を作る等)を検討し、教育プログラムを確立する。ただし、「短報」(ケースレポート)に限る。
 - (ウ) (イ)のシステム作りにあたっては、編集委員会が中心となり企画委員会へ提案・相談 認定委員会で検討 理事・評議員会にて検討、という段取りを経る。
 - (エ) 編集委員会として学会での「一般口演」等からも、原著論文に成り得る発表を探す。
 - (オ) 本会雑誌では、原著2本、短報1本以上の掲載を理想とする。
- (2) 将来の「原著」「短報」増加を想定した査読システムの強化について：
将来、「原著」「短報」の投稿数が増加した場合は、メイン査読者および査読者をさらにつのる。その際、編集委員外からもメイン査読者を選び、付随して新たな査読者も選出するとこと、またメイン査読者および査読者の任期は選出時の編集委員長任期に従うと確認された。
- (3) 本会雑誌の体裁現状について：
本会雑誌の判型はA4、表紙まわりは4色カラー・本文1色・モノクロ、総ページ数は投稿状況などを鑑み現在40頁が前提。ただし40頁では雑誌本体に厚みが出ず、背表紙を出すことが困難なため、さらなる本編(「総説」「原著」「短報」「技術講座」)の充実を目指し、体裁においても不十分な点を克服していくことが確認された。
- (4) 原稿のやりとりについて：
原稿のやりとりについて(ア)を確認(イ)が補足された。
- (ア) やりとりはすべてメールにて行う。郵送では原則行わない。「原著」「短報」の投稿者も本会ホームページの投稿規定を確認し、メールにて投稿原稿を送る。
 - (イ) 投稿原稿はWord(またはテキスト)およびそのファイルをPDF化した2つのファイルを送付する。査読者およびメイン査読者はやりとりの際にWordファイルに修正点等を入力し、オリジナル原稿の消去や誤印字を防止するため、PDFファイルをオリジナルの確認用ファイルとして扱う。よって、投稿規程の一部を変更する。
- (5) 電子ジャーナルについて：
電子ジャーナルについて信田会長より(ア)を確認(イ)が提案された。
- (ア) 電子ジャーナル上での学会雑誌掲載に関する業績評価について、出席した編集委員の所属する各大学(麻布大学、日本大学、酪農学園大学、日本獣医生命科学大学 順不同)では、特に紙媒体上での学会雑誌掲載と区別がない。
 - (イ) コスト面も鑑み、現会長任期期間(4年間)中、可能な限り早期に、本会雑誌の掲載を電子ジャーナル上へと段階的に移行していく。

4. 次回会議 開催予定

日時：2009年秋

場所：未定

出席者(予定、順不同・敬称略): 藤田道郎(編集委員長)、下田哲也、山上哲史、高橋朋子、廉澤 剛、
圓尾拓也、皆上大吾、浅野和之、難波裕之(編集委員8名)、吉田由紀子(CACompany 委託:編集・
制作担当)

審議事項:

1. 審議事項

- (1) 本会雑誌創刊号に向けての進行と2号以降の進行について(仮)
- (2) 査読者について(仮)
- (3) 論文投稿促進のため、認定医の教育システムの確立について(仮)
- (4) 電子ジャーナルについて(仮)

以上

(文責者: 藤田道郎)